
正直になれない僕達は

須藤梨紅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正直になれない僕達は

【Nコード】

N5168BA

【作者名】

須藤梨紅

【あらすじ】

APT X 4 8 6 9 の解毒剤の開発は不可能になった。

コナンは哀を信じていた。

だけど叶わなかった。

二人は引き裂かれ、また巡り合う・・・

コ哀です。

1 秘密（前書き）

新作です

コ哀です！

なるべく早く投稿しますので、どうか見守っていてください！

1 秘密

ばらばらと白い雪。

今日も私は、隠していたことをあかせずにいた。

「それじゃあ博士、行ってきます。」

「哀くん、気をつけてな。」

あの薬を作り、あなたが被害を受け、解毒剤の開発に努めたけれどもとんでもないことが発覚してしまった。

もうもとは戻れない。

飲んでしまったA P T X 4 8 6 9は、もともと死に至るほど強力なもの。

だから、もちろん強い薬品が入っている。

それを解く薬など、まだ開発されていない。

今までのものはそれを和らげるもので、それが完全になくなることはありえない。

私はこの姿のほうが楽だった。

組織にいたこと、お姉ちゃんをなくしたこと・・・

宮野志保の姿で起こしたことを、忘れられるような気がして。

だけど彼は違う。

蘭さんのもとに戻るといふ理由があるから。

だからこそ……

「よう、灰原。」

「おはよう哀ちゃん！」

「おはようございます、灰原さん！」

「灰原！今日オレなあ、朝飯うな重もどきだったぜ！」

「元太君……なんですかそれ。」

他愛のない話。

だけど私はそれに溶け込んでいるのだろうか？

「灰原。」

「……ああ、工藤君……」

「どうだ？開発のほう……」

胸が痛む。あなたを傷つけるかもと。

だけど……

「工藤君、よく聞いて。」

1 秘密（後書き）

至らない点があるとおもいますが、読んでくれてありがとうございます。

次回はコナンが爆発します。

2 決意して（前書き）

2 話目です。 険悪なムードですが、いい方向にむけるよう努めますので、
どうか読んでください><

2 決意して

「工藤君・・・私達は、もう元に戻れないわ。」

前を歩く純粋な小学一年生。何もかも忘れて、楽になれたら。

歩く足がぴたりととまった。

「・・・おい、灰原、冗談だろ？」

「・・・全力は尽くしたわ」

「・・・ッざけんなよっ！」

工藤君の声。それは大きく、周りの人が見た。

「コナン君・・・？」

「ああ、わりイ、みんな・・・今日は先いつててくれ。」

「？はい・・・」

「灰原、どういうことだ？家で話そう。」

私達は一言も交わさぬまま、博士の家に向かった。

「ただいま・・・」

「哀くん！それに新一・・・どうしたんじゃ？」

「博士・・・事情はあとで話すから、今は席をはずしてくれ・・・」

工藤君がいうと、博士はうなずき、自分の実験室に戻った。

2 決意して（後書き）

次回は涙が見えるかもしれませんっ！

3 涙を流しても（前書き）

お気に入りありがとうございますっ
天国へのカウントダウンの話も入ってます。

3 涙を流しても

「灰原・・・話してくれ。」

工藤君に言われ、私は話し始めた。

「もともと、A P T X 4 8 6 9 に、幼児化するなんていう症状は出ないの。本当は、『摂取した者はしにいたるが、その毒物が体内から検出されない薬』なの。」

だから、一番強力な薬を打ち消せば、解毒できる。

「だけど・・・だけど、組織が T O K I W A のメインコンピュータを爆破したとき・・・あのとき、原は同時に組織のデータを送ってしまった。その時よ。その時に、データは完全に消滅してしまった・・・！」

「・・・まさか・・・そんな・・・」

「私も、それを最近知ったの。それに、戻れたとしても、今まで使った解毒剤の耐性ができてしまった。」

あの薬は和らげる薬だから、すべては打ち消せない・・・だから事実上戻るのは不可能・・・」

「灰原・・・オレ、まだ蘭に何も伝えてないんだ・・・」

新一の姿で！またずっと待たせ続けなきゃいけない！オレが一回でももとに戻れたら・・・！！」

「ごめんなさい・・・」

「ごめんなさい！？そんなんですむと・・・すむとおもってんのか・

・・・

オレは蘭を・・・蘭を・・・それがわかんねエのかよ!!」

「工藤君・・・もうどうしようもないわ。だから、もしものために残しておいた、最後の解毒剤・・・

一時的に元に戻るわ。3日間だけ。それで、工藤新一として、最後に・・・」

「・・・うあああつ!あ・・・ああ・・・」

工藤君が声を荒げて泣いていた。

本当に・・・

私は馬鹿だ・・・

「私は急いで解毒剤を作るわ・・・」

まるで逃げるかのように、部屋に戻る。

「・・・最悪だわ。私、好きな人を傷つけて、人生を狂わせた・・・
私が・・・私がすべての発端・・・あ・・・ああ・・・ああ・・・
・ッ!」

どうにもならなかった。

3 涙を流しても（後書き）

文字がぐちゃぐちゃですね。許してください><

4 戻れなくて（前書き）

哀ちゃんのみです！

4 戻れなくて

工藤君から逃げてしまった。

工藤君が泣いていた。あの工藤君が、声を荒げて。私は絶えられなかった。

工藤君が泣いていたことじゃなくて・・・

工藤君が蘭さんのことを想って泣いていた事に。分かっていたのに。

私の気持ちは届かないことくらい。

私の一番の願いは叶わないことくらい。

そう思ったら、受話器をとっていた。

「お姉ちゃん・・・」

目に涙が浮かんだ。私はいそいでプッシュボタンをおした。

「お姉ちゃん・・・私、一番大事な人を傷つけてしまった・・・。もう取り返しのつかないことになってしまった・・・！」

お姉ちゃん、どうして私、こんなことになったの・・・？私、工藤君がいたから一人じゃなかったのに！

吉田さんや博士だっていたけど・・・

いつだって心を支えてくれたのは工藤君だった・・・！」

届かないこの気持ちを、誰かに伝えなきゃやっていられなかった。

たとえそれがもういない人でも・・・

「戻れないよ・・・お姉ちゃん、戻れない・・・
お姉ちゃんがいたから頑張れたあのときも・・・
工藤君が隣にいた時も・・・
戻れない・・・もう戻れないの・・・！」

4 戻れなくて（後書き）

次はコナン目線です！コナンファンの方、お待たせしました

5 あふれる涙（前書き）

コナン目線です！

5 あふれる涙

灰原が部屋に行ってしまった。

「おい、新一……」

「ああ、博士……わりいな、大声だしちまってよ……」

「いや、わしはかまわんが、哀君は……？」

「部屋にこもっちまった……」

「……じゃが新一、もともと解毒剤は完成するかは定かじゃなかったんじゃ、哀君を許してやったらどうじゃ？」

「ああ、俺だって、悪いのは灰原じゃないと思った。だけどよ……動いちまったんだよ、体が。」

どうしてあの薬があっただろう、なかったら俺と蘭はそばにいたかもしれないのにつて……」

「新一……」

「俺はアイツをいま、とても許してやれないかもしれない……顔をみたら傷つけるかもしれないだろ？だから、しばらくは顔も合わせらんねえよ。」

「そうか……じゃが、哀君のためにも早く話してやらんな……」

「ああ……わーってるよ……ちょっと一人になりてえんだ。父さんの書籍行ってくる。」

「ああ……」

父さんの書斎。自然と心が安らぐ。

だけど。今日は……

「かーっとなっちまって、涙までみせちまった。かっこわりいな、俺……」

「ただど．．．もう蘭に．．．新一の姿をみせられない．．．か．．．」

蘭の笑顔が。

蘭が叱咤の声をあげる顔が。

蘭の涙が。

もう俺の姿で見られない。

「ごめん．．．蘭．．．ほんとにつ．．．俺はお前のそばに．．．蘭の隣に戻ることは、できねえみたいだ．．．。」

おさえられない涙があふれ、とまらなかった。

5 あふれる涙（後書き）

心理描写がまだ不得意です。
どうか見逃してください。><

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5168ba/>

正直になれない僕達は

2012年1月15日01時53分発行